

防コミの歩き方

BOSAI
KOBE
MIRAI



竹の台地区親子ぼうさいキャンプ

竹の台地区では、例年児童館日曜コミュニティ育成事業として親子向けの防災訓練をおこなってきましたが、昨年からは、さらにバージョンアップして、宿泊体験型防災訓練を実施しています。今年は、7月31日～8月1日の両日、スタッフ総勢80人、参加者のべ50人でおこないました。

●プログラム

内容は、「防災訓練(水消火器・毛布担架・119番通報・AED・応急処置法・液状化体験・防災ダック)」、「市民救命士講習」、「大容量貯水槽からの応急給水訓練」、「炊き出し訓練」、「震災体験を聞く」、「エコノミークラス症候群の話」、「防災標語とポスター作成」などです。

●特徴

現在さまざまなところで防災キャンプがおこなわれていますが、竹の台の防災キャンプの特徴の1つは、企画運営スタッフ、参加者ともに、実際にその小学校を避難所とする校区の住民であること。そのため、「親子参加」にこだわりました。これは、実際に災害が起きた際は家族単位で行動するので、家族一緒に日頃の備えについて考えて欲しいと思ったことや、子どもたちは学校の防災授業で知識や技術を習得しているにもかかわらず、保護者にはそれが伝わっていないこと。そして何より、親御さんに地域のイベントに参加してもらい、スタッフと顔見知りになって欲しいと思ったからです。

2つめの特徴は、参加者が「お客様」とな

らないこと。災害が起こった時には、一人ひとりが自分の責任でどう行動したら良いかを主体的に考えなければなりません。そのため、プログラムは、あえて完成されたものではなく、考えさせるメニューを入れています。たとえば、「避難所のトイレの水が使えない。どうしよう?」という課題に対しては、プールからトイレまで「バケツ・リレー」をしてはどうか、というアイデアが出て、実際にそれをやってみたり、「避難食が届いたが、1グループ10人のところに菓子パン3個。どうやって分ける?」という課題では、なかなか分け方が決まらず困ったり……。

3つめの特徴は、若いスタッフが多いこと。舞子高校環境防災科の高校生、神戸学院大学防災・社会貢献ユニットや神戸市看護大学の大学生などがスタッフに入ることによってイベントに活気が出て、参加した子どもたちも地域スタッフも大喜び。昨年参加した地域在住の学生スタッフが中心になって、ジュニア防災グループも発足しました。このイベントを継続し、キャンプに参加した子どもたちがスタッフとなって活躍してくれると良いなあ、と思っています。

(竹の台地区子ども連絡会 浜 尚美)

